

令和7年度補正予算

「産学連携リ・スキリング・
エコシステム構築事業」
補助金事業

大学リ・スキリングプログラム事例集

メニュー②「産業成長」

領域：モビリティ



横浜市立大学: 位置情報データ活用人材育成プログラム

プログラム概要

① 名称

- 位置情報データ活用育成プログラム

② 目的

- モビリティ産業等における位置情報データ（人流データ）の活用ニーズに対し、現場リテラシーの底上げと高度経営人材の育成

③ 対象者層

- 観光、防災、都市計画、物流、自動運転等の分野に従事する企業の次世代リーダー、実務担当者、および新人研修
- EBPMを推進する地方自治体の行政職員
- データサイエンスや地域課題解決に関心のある大学生・大学院生

④ 育成対象の課題・目指す姿

- データ分析と政策・事業をつなぐ高度人材が不足しており、実データに基づく施策提案やリテラシー向上への強いニーズが存在
- 位置情報データ（実データ）を用いてビジネス提案や事業計画に落とし込める即戦力人材。またそれを業界標準資格とする

⑤ 学修成果

- 修了後にデジタルバッジ（オープンバッジ）を発行

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 基礎理解から実データ分析、施策発表までを網羅する「実務直結の6ステップ」を採用
- リテラシー向上から高度PBLまで、受講者のレベルに応じた階層のプログラムを提供（本年度はリテラシー向上の階層が主）
- 座学はオンデマンド、ワークショップは対面を組み合わせ、多忙な社会人でも学びやすさを実現
- 昨年度の要望に基づき、実データを用いたグループワークの時間を拡充し、提案精度の向上を図る。

② アピールポイント

- LBMA Japanの認定プログラムを目指し、国内唯一の位置情報の資格を創設（スキルの客観的な証明により、社内での処遇改善やキャリアアップを支援する）
- 120社超の加盟企業・行政との交流に加え、本学学生との協働を通じた「ダイレクト・リクルーティング」の機会を提供
- 特定ベンダーに依存しない大学ならではの中立的な視点を養える
- 本プログラムの学修成果を、本学大学院の単位認定や社会人入試の優遇措置に直結させ、修士・博士課程への接続を可能にする。



横浜市立大学: 位置情報データ活用人材育成プログラム

プログラム詳細

⑥ 受講料

- コースにより50,000円 or 100,000円（今後更新予定）

⑦ 受講人数

- 170人（今後更新予定）

⑧ 受講時間数

- コースにより20時間 or 40時間（今後更新予定）

⑨ 開講時期・所要期間

- 10~3月（今後更新予定）
- 2か月間（今後更新予定）

⑩ 社会人の学びやすさへの配慮

- オンデマンド動画配信を行い、どこでもいつでも学べる体制を整える

⑪ 実施形式

- オンライン（講義），対面（ワークショップ）

申込方法・サイトURL

- 大学ウェブサイトから（今後更新予定）

担当連絡先

- 横浜市立大学社会連携センター
recurrent@yokohama-cu.ac.jp 045-681-7560

⑫ シラバス

実務に直結する体系的な6ステップにより、知識の習得から実データを用いた施策提案までを網羅する。なお、内容は国土交通省の『ビッグデータの実践的な利活用への手引き』の内容を踏まえたものとする。

- STEP1基礎理解：位置情報・人流データの基礎知識，最新理論，および活用の社会的意義を学ぶ
- STEP2データ理解：データの種類・特性，取得手法に加え，中立的な視点から個人情報保護やデータのバイアスについて理解を深める
- STEP3活用設計：具体的なビジネス課題の設定方法，分析フレームワークの設計，および仮説構築の手法を習得する
- STEP4ケース演習：過去の実事例（観光，モビリティ，防災等）を用いたシミュレーションにより，課題解決のプロセスを演習します
- STEP5実データWS（ワークショップ）：実際の人流データ（ZDC提供等）を扱い，分析・可視化から具体的な施策立案までのグループワークを行う
- STEP6発案・発表：構築した事業計画案をプレゼンテーションし，産官学の専門家や実務家から実践的なフィードバックを受ける

※受講生のレベルに合わせ，オンデマンド，ワークショップ，高度実践（PBL）の各階層で最適なカリキュラムを提供できるようにする。

横浜市立大学: 位置情報データ活用人材育成プログラム

昨年度プログラム内容

プログラム写真



位置情報データ活用講座シリーズ①
「人流データを活用したイベント分析と提案スキルの向上～
GREEN×EXPO2027 の経済効果最大化に向けて～」

受講者数

- 企業等12名、学生8名、協賛企業15名 計35名

実際のプログラム実施内容

- 期間:令和8年2月12日(木)～3月16日(月)全6回

昨年度成果サマリー

満足度

- とても良かった43% 良かった57% (修了後アンケートから)
- また参加したい53% 社内の人に勧めたい24% 次回の詳しい案内がほしい24%

受講生を輩出した企業の声

- 他社や学生さんとともにワークをする体験を設定してもらえるのは、大学ならではのと思う
- 内容の濃いフレームワーク。社内の研修では得られない視点

受講生の声

- 普段、位置情報に接しているが、知らなかった知識もあった
- 社会人と学生さんが協働でワークを行う機会もなかなかないため、新鮮な受講となった
- 交流会が設定されていたことが、ネットワークづくりにもなった。

昨年度の実施を踏まえた発展ポイント

- 実際にデータを使ったワークには、ある程度の時間を要するため、時間・回数等の確保が必要。
- ストーリー作り、シナリオ作り等をつめることで、受講生のモチベーションと効率的な学修が可能。